

授 業 要 項

令和2年度

科目名	生理学Ⅱ				担当者	林寿来			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	個体の生命維持に必要な血液、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系および種の保存に必要な生殖器系の機能について学ぶ。さらに、調節系である自律神経と内分泌器系についても理解を深める。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 血液の組成と機能	血液の成分やその機能を説明できる。また、血液型や血液凝固機序を説明できる。	林寿来
	2 心臓の興奮と収縮	心臓の興奮伝導系を基に自動能を説明できる。心臓周期における心房および心室の内圧や容積変化を説明できる。心電図や心音図を説明できる。	林寿来
	3 血圧の意義と循環調節	血管系の機能と血行力学を理解できる。血圧の意義や影響する因子を説明できる。静脈循環の特徴や影響する因子説明できる。	林寿来
	4 呼吸運動とガス交換の機序	呼吸運動を肺力学的に説明できる。換気に関する肺容量の変化、ガスの拡散に関係する因子、ガスの運搬機能を説明できる。呼吸の調節機序を説明できる。	林寿来
	5 消化と吸収の機序	機械的消化について、咀嚼や嚥下および消化管運動について説明できる。化学的消化について、消化液の分泌機序や消化酵素の作用を説明できる。	林寿来
	6 内分泌による調節と体温調節	ホルモンの作用機序や分泌調節を説明できる。体温調節機序について説明できる。	林寿来
	7 性の分化と生殖機能	性の分化と発達を理解し、生殖器の機能を説明できる。	林寿来
	8 尿の生成と排泄および体液調節	尿の生成について、糸球体濾過と尿細管における再吸収と分泌を説明できる。体液の恒常性維持を説明できる。	林寿来
	9 酸塩基平衡の調節	緩衝作用、肺と腎による酸塩基平衡の制御を説明できる。	林寿来
授業形態	パワーポイントによる講義		
教科書	生理学テキスト 文光堂		
参考書	やさしい生理学 南江堂 人体機能生理学 南江堂 標準生理学 医学書院		
評価方法	小テストおよび定期試験		
授業時間外の学習	必要に応じて、予習復習に努めること		
履修上の留意点	講義時間内に内容を理解すること。理解した点を説明できること。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	病理学				担当者	橋本 克訓			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	疾病の成り立ちを理解する上での基礎となる病因と病変の特徴について理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 序論、腫瘍	1. 基礎医学としての病理学、臨床医学としての病理学の役割を理解し、説明できる。 2. 病理学総論の各疾患概念(腫瘍、炎症・感染症、免疫異常、循環障害、代謝障害、染色体・遺伝子異常、退行性病変・進行性病変など)について、その病因および病態が説明できる。また、その疾患概念には、それぞれどのような疾病があるか説明できる。 3. 後半に教授する各臓器・器官の疾病について、それぞれの病因、病態の特徴を説明できる。	橋本克訓
	2 炎症・感染症、免疫異常・アレルギー		橋本克訓
	3 循環障害		橋本克訓
	4 代謝障害、染色体異常・発生異常		橋本克訓
	5 退行性病変・進行性病変		橋本克訓
	6 消化器、肝胆膵		橋本克訓
	7 呼吸器、循環器		橋本克訓
	8 造血器、女性生殖器、		橋本克訓
	9 乳腺、腎泌尿器、男性生殖器		橋本克訓
	10 中枢神経、運動器、内分泌		橋本克訓
授業形態	オリジナルの講義プリントを毎回配布する。これに沿ったプレゼンテーション・ソフトにより講義をする。		
教科書	梶原博毅 監修、横井豊治、村雲芳樹 編集:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版 医学書院		
参考書	北川昌伸, 仁木利郎 編 『標準病理学 第6版』(医学書院, 2018年) ISBN: 978-4260036597 豊國伸哉, 高橋雅英 監修, 翻訳 『ロビンス基礎病理学 原書10版』(丸善出版, 2018年) ISBN: 978-4621301982 深山正久編集 『はじめの一歩の病理学 第2版』(羊土社, 2017年) ISBN 978-6352417895		
評価方法	試験と出席状況により総合的に評価する。		
授業時間外の学習	オリジナルの演習問題集を配布する。授業テーマに関する箇所を授業時間外に解いて復習し知識を整理すること。		
履修上の留意点	解剖・生理学、感染・免疫学など、基礎医学科目で学んだ事柄を理解した上で受講するのが望ましい。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	薬理学				担当者	村上 英嗣			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	薬が“効く”とは何を意味するのでしょうか？皆さんが病気になったとき、体にいろいろな変化が起こります。病院で処方された薬、薬局で購入した市販薬がどのように作用して病気を克服してゆくのか、その“作用機序（メカニズム）”を理解することを学習目標としています。 （個々の薬の知識を習得することが学習目的ではありません。）		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 細胞内情報伝達	細胞外の情報（ホルモン、オータコイド、さらに薬など）が、どのようにして細胞膜で閉ざされた細胞内に伝達されるのかを学ぶ。 【keywords】（受容体、G-蛋白、cAMP、cGMP、細胞内Ca ²⁺ ）	村上英嗣
	2 薬理学概論（薬物動態）	薬の投与法、体内動態、薬物代謝・排泄、薬物相互作用などについて学ぶ。 【keywords】（バイオアベイラビリティ、コンプライアンス、チトクロームP450、抱合体）	村上英嗣
	3 鎮痛薬・解熱薬・抗炎症薬	痛み物質を理解する。細胞膜からアラキドン酸の遊離、プロスタグランジン類の生合成、その生理作用を学ぶ。 【keywords】（ホスホリパーゼA ₂ 、COX、NSAIDs、SAIDs、麻薬性（オピオイド）鎮痛薬）	村上英嗣
	4 感染症（細菌・ウイルスなど）、 ウイルス性肝炎・HIV感染症・消毒法	「非自己」である微生物が生体内に侵入して起こる感染症の治療に用いる薬について学ぶ。 【keywords】（抗生物質、選択毒性、蛋白合成阻害、核酸合成阻害、細胞壁合成阻害、市中感染症、院内感染症、薬剤耐性菌）	村上英嗣
	5 糖尿病、メタボリックシンドローム	糖質・脂質・蛋白質代謝の相互関係を理解し、生体内のエネルギー代謝を学ぶ。 【keywords】（1型糖尿病、2型糖尿病、運動療法の重要性）	村上英嗣
	6 動脈血栓症・静脈血栓症・心不全・ 虚血性心疾患・高血圧症・利尿薬	心筋梗塞、脳卒中（脳梗塞・脳出血）、さらに大規模災害のとき、避難所への長期滞在時に起こる旅行者血栓症（エコノミークラス症候群）などの血栓症について学ぶ。 【keywords】（止血機構の理解）	村上英嗣
	7 てんかん・統合失調症・パーキンソン 病・認知症（アルツハイマー病）・偏頭痛	個々の病態を説明し、それぞれに対応する薬の作用機序を学ぶ。	村上英嗣
	8 自己免疫疾患・癌・漢方薬・分子標的 薬・その他・まとめ	個々の病態を説明し、対応する薬の作用機序を学ぶ。 また漢方薬の考え方、分子標的薬についても紹介する。	村上英嗣
授業形態	教科書、およびパワーポイントによるスライドと動画を用いて講義を行う。		
教科書	「図解 薬理学 病態生理から考える薬の効くメカニズムと治療戦略」 越前宏俊 著 医学書院		
参考書			
評価方法	学習後 客観試験により評価する。		
授業時間外の 学習	授業内容[行動目標]欄の【keywords】を理解し、説明できるように復習しておく。		
履修上の 留意点	◎個々の薬の名前や構造式などの知識を細かく習得するものではありません。 ◎疾患に対して何故その薬が有効なのか、“作用機序”を理解するように心がけてください。 ◎薬理学を中心に、生化学、栄養学、分子生物学の知見も紹介しながら講義を進めます。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	国語表現				担当者	前島良雄			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	話し言葉と書き言葉の相違を理解する。言葉を通しての人との関わり方について考える。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 言葉の基本	自然言語のしくみを理解する。	前島良雄
	2 言語とコミュニケーション	コミュニケーションの中で言語が果たす役割を理解する。	前島良雄
	3 日本語の独自性	日本語がもっている独自の性質について理解する。	前島良雄
	4 文章読解力	話し言葉の理解力とは異なる文章の読解力について理解する。	前島良雄
	5 小説の読解①	小説の基本を理解する。	前島良雄
	6 小説の読解②	小説を現代社会と比べてみる。	前島良雄
	7 詩歌の読解① 敬語のしくみ	常識として知っておきたい和歌など。	前島良雄
	8 詩歌の読解② 敬語の使い方	常識として知っておきたい俳句など。	前島良雄
	9 古典芸能に親しむ① 敬語の練習	常識として知っておきたい落語など。	前島良雄
	10 古典芸能に親しむ② 文章の書き方	常識として知っておきたいその他の古典芸術・芸能。明治～昭和の歌。	前島良雄
授業形態	講義		
教科書	プリントを配布する		
参考書	講義の中で紹介する		
評価方法	レポート(50%)、筆記試験(50%)		
授業時間外の 学習	講義のノートを読み返す。		
履修上の 留意点	わからない語句などはその日のうちに質問する。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	英語Ⅱ				担当者	小寺陽子			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	医療の人間学的、生命科学的、倫理社会的の3つの領域の基本的知識を英語で理解し、医療従事者に必要とされる英語力の向上を目指す。又英文の読解のみならず、コミュニケーションにおいても学んだ表現を応用できることを目指す。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 Basics for Health Care Professionals	人体の捉え方、基本的欲求、自己概念と健康について考察する	小寺陽子
	2 The Digestive System	口から腸までの食物の流れと、各栄養素の分解、吸収に関わる各臓器の働きを理解する	小寺陽子
	3 The Cardiovascular System	心臓の動きとその疾患を理解し、併せてその治療方法を考察する	小寺陽子
	4 The Neurological System	神経系の成り立ちと重要な役割を理解し、うまく機能しなくなった時の症状を考察する	小寺陽子
	5 The Urinary System	泌尿器系の中心の腎臓の機能を理解した上で、腎臓移植に関わる問題を考察する	小寺陽子
	6 The Reproductive System	不妊治療の高度医療技術である生殖支援テクノロジーを学習し、倫理的問題を考察する	小寺陽子
	7 The Skeletal System	骨粗鬆症や関節痛などの骨の病気を理解し、どのように骨の健康を保てるか考察する	小寺陽子
	8 The Immune System	身体の抗原抗体反応のメカニズムを理解し、その過剰な反応であるアレルギーを考察する	小寺陽子
	9 The Endocrine System	国民病ともいわれる糖尿病の2つのタイプを理解し、その予防にどのようなことをすべきか考える	小寺陽子
	10 Preventing the Spread of infectious Diseases	細菌やウイルスが引き起こす様々な感染症を理解し、それを防ぐ方法を考察する	小寺陽子
授業形態	演習(毎回1ユニット)、DVD視聴(Tor F問題)		
教科書	Understanding Health Care 朝日出版社		
参考書	インターネットで検索した授業に関連した情報		
評価方法	期末試験(70%) 小テスト(30%)		
授業時間外の学習	事前に該当箇所のユニットを予習し、クラス後は授業内容に関連した課題に取り組む。		
履修上の留意点	ペアワークやグループワークでの英語を使つてのアクティビティには積極的に参加すること。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	人間関係論				担当者	杉山 郁子			
学 年	1年	学 期	後期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	人間関係における自分の特徴に気づく コミュニケーションの基礎を学ぶ 有効な人間関係を築けるように、自他の能力を生かす力を養う		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 体験から学ぶ効果的コミュニケーション5つの要素	この授業の学び方である体験学習を理解する。 コミュニケーションの5つの要素を知る。	杉山 郁子
	2 自己概念	自分自身が自分をどのように捉えているかを明確にする。	杉山 郁子
	3 コミュニケーションプロセス	コミュニケーションがどのように行われているか理解し、阻害要因を知る。	杉山 郁子
	4 アサーショントレーニング	自他尊重のコミュニケーションであるアサーションを理解し、関係に生かす。	杉山 郁子
	5 価値観とは	物事の判断の基準となる価値観を理解し、自分の価値観に気づく。	杉山 郁子
	6 価値観と人間関係	人間関係に価値観がどのような影響を与えているかを理解する。	杉山 郁子
	7 チームの力を生かす	グループ活動を通して、自分や他者の力を生かす可能性を試みる。	杉山 郁子
	8 まとめ(45分)	この授業での学びを整理する。課題レポートの提示をする。	杉山 郁子
授業形態	体験学習、講義		
教科書	「今ここ」を生きる人間関係 杉山郁子(編) ナカニシヤ出版		
参考書	人間関係トレーニング 津村俊光、山口真人(編) ナカニシヤ出版		
評価方法	授業への参加の様子・ジャーナル・レポートなどの総合評価		
授業時間外の学習	授業で学んだことのテキスト該当部分を読み、理解しておく。		
履修上の留意点	体験学習を中心として進めていくので、主体的に学び目標を達成するように務める。欠席は補填できないので、極力しないように心がける。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	理学療法管理学Ⅰ				担当者	嵯峨守人 中川 誠			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	管理学Ⅰ・Ⅱでは、理学療法士の職域が、医療・保健・福祉などに拡大するなかで、理学療法士の業務がより安全で合理的、経済的、効率的に遂行されるために求められる手段を様々な角度から学ぶ。管理学Ⅰでは、総論と当院における施設概要や国立病院機構の組織概要を知ると共に各部門の業務内容について学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 理学療法管理学とは①	理学療法管理学の総論について理解できる。	中川誠
	2 病院の概要と運営方針	国立病院機構の概要と運営方針について理解できる。	嵯峨守人
	3 医の倫理	医の倫理について理解できる。	嵯峨守人
	4 病院の組織と事務部門の業務	国立病院機構の組織と事務部門の業務について理解できる。	嵯峨守人
	5 看護部門の組織と業務	看護部門の組織と業務について理解できる。	嵯峨守人
	6 経営企画室の業務と保険請求	経営企画室の業務と保険請求について理解できる。	嵯峨守人
	7 医療安全管理部門の組織と業務	医療安全管理部門の組織と業務について理解できる。	嵯峨守人
	8 感染管理部門の組織と業務	感染管理部門の組織と業務について理解できる。	嵯峨守人
	9 栄養管理室の業務	栄養管理室の業務について理解できる。	嵯峨守人
	10 医療社会事業専門職の業務	医療社会事業専門職の業務について理解できる。	嵯峨守人
	11 言語療法室の業務	言語療法室の業務について理解できる。	嵯峨守人
	12 薬剤部の業務	薬剤部の業務について理解できる。	嵯峨守人
	13 診療放射線科の業務	診療放射線科の業務について理解できる。	嵯峨守人
	14 臨床検査科の業務	臨床検査科の業務について理解できる。	嵯峨守人
	15 院内見学/病棟見学	薬剤部、診療放射線科、臨床検査科、地域包括ケア病棟、重症心身障害児(者)病棟、神経難病病棟、回復期リハビリテーション病棟の見学しその概要を理解できる。	嵯峨守人
	16 理学療法管理学とは ②	理学療法倫理要項等について理解できる。	中川誠
17 発表および総括	ディスカッション、グループワークを経て発表を行う。その後に総括も実施。	中川誠 嵯峨守人	
授業形態	講義 見学 ディスカッション・グループワークを経ての発表		
教科書	特に無し		
参考書	特に無いがレポート作成時に必要な場合は適宜紹介する		
評価方法	レポート(遅延・未提出は減点)(80%) 発表内容(20%)		
授業時間外の学習	講義や見学で理解した内容を説明できるようになるために知識の整理をする。		
履修上の留意点	1年前期で学習した理学療法概論を振り返り、目的意識を持って主体的に取り組むこと。		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	日常生活活動学Ⅰ				担当者	伊藤 剛			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	理学療法士には患者の障害とADLとの関連を正しくとらえ、個人の生活様式に配慮したADLの指導とQOLを高める観点が求められる。ここではADLの概念・範囲について学び、日常生活動作を運動機能の視点から捉え、移乗動作の基本となる身体重心や支持基底面などについて学習する。また、福祉用具や代表的なADLの評価について意義、目的、内容を理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 ADLの概念と範囲、ADLと障害	ADLの概念を説明できる ADLの範囲と評価項目との関係を説明できる	伊藤 剛
	2 ICIDHとICFについて、ADLとQOLの関係を理解する	障害分類とADLを関連付け説明できる。 QOLの概念を説明でき、ADLとの関係も説明できる。	伊藤 剛
	3 ADLと運動学・重心と支持基底面	ADLを運動学的にとらえ説明できる。	伊藤 剛
	4 基本姿勢 寝返り・起き上がり・立ち上がり動作の分析(実技)	基本姿勢、基本動作について理解する。	伊藤 剛
	5 テーマ①発表、車椅子 車椅子の走行(自走・介助)、移乗動作の実習	車椅子の種類、部位の名称、使用目的、使用方法を説明できる。車椅子の操作、移乗動作を理解し、行うことができる。	伊藤 剛
	6 テーマ②発表、歩行補助具 歩行補助具を用いた歩行の実習	歩行補助具の種類、使用目的、使用方法を説明できる。歩行補助具の特徴を理解する。歩行補助具の有無での歩行の違いを理解する。	伊藤 剛
	7 テーマ③発表、自助具、日常生活用具 各種ADL動作の観察、分析	自助具、日常生活用具の種類、使用目的、使用方法を説明できる。各種ADL動作について、観察、分析を通して理解する。	伊藤 剛
	8 ADL評価	ADL評価の意義、目的を理解する。代表的なADL評価表についてその特徴、具体的内容を理解する。	伊藤 剛
授業形態	講義、実技、発表		
教科書	千住秀明監修:日常生活活動(ADL)第2版:神陵文庫 千野直一他編集:脳卒中の機能評価—SIASとFIM[基礎編]		
参考書	基礎運動学: 医歯薬出版株式会社 標準理学療法学 日常生活活動・生活環境学 :医学書院 土屋弘吉:日常生活活動(動作)第3版:医歯薬出版		
評価方法	筆記試験(90%)、発表(10%)		
授業時間外の学習	事前配布資料を読み予習して臨む。発表に向けての資料作成などの発表準備を行う。		
履修上の留意点	実技をする場合がありますので、授業内容について確認して下さい 教室の確認をして下さい(機能訓練室等使用する場合あり) 日常生活動作について、日頃から観察しておきましょう		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	基礎理学療法学				担当者	中村 敦子			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	理学療法の中で中心となる運動療法に焦点をあて、その基本となる項目および理論的背景について学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 理学療法・運動療法概論	理学療法の流れ、枠組み、運動療法の定義・目的・対象・種類を説明できる。	中村 敦子
	2 関節の機能と障害 関節可動域運動	関節の機能と制限因子を理解し、関節可動域運動の目的・種類・方法・注意事項を説明できる。	
	3 筋の機能と障害 筋力増強運動	筋収縮、張力からみた収縮特性と調節を理解し、筋力増強の基礎理論、運動の原則、筋収縮運動の特徴を理解し、説明できる。	
	4 神経系の機能と障害 神経生理学的アプローチ	随意運動のメカニズム、運動制御、運動学習について理解し、説明できる。	
	5 協調性運動	協調性障害に対する運動療法理論について理解し、説明できる。	
	6 姿勢と動作 バランス	姿勢制御のメカニズム、基本動作の成り立ち、バランスについて理解し、説明できる。	
	7 運動と呼吸・循環・代謝 持久力運動	運動時における呼吸・循環・代謝のしくみを理解した上で、持久力の概念、改善方法について説明できる。	
	8 二次障害 全身調整運動	運動療法を行う際の二次障害について理解し、コンディショニングや全身調整運動について説明できる。	
	9 バイタルサイン	リスク管理としてバイタルサインについて説明できる。	
授業形態	事前課題 講義 グループワーク グループ発表 ポストテスト		
教科書	吉尾雅春編：標準理学療法学 運動療法学総論 第4版 医学書院		
参考書	中村隆一著：基礎運動学 第6版. 医師薬出版 千住秀明監修：理学療法テキストⅢ 運動療法Ⅰ 第2版. 神陵文庫 石川朗総編集：15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動療法学. 中山書店 細田多穂監修：シンプル理学療法シリーズ 運動療法学テキスト. 南江堂 柳澤健編：運動療法学 改訂第2版. 金原出版		
評価方法	筆記試験(90%) グループ発表(10%)		
授業時間外の学習	予習として解剖学・生理学・基礎運動学で学んだ内容を確認し、復習として当日習った内容の確認を、併せて1時間程度はすること		
履修上の留意点	グループごとに、テーマについてまとめて発表する機会もあります。内容について充分理解し、わかりやすい発表に努めること		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	生活環境論				担当者	深谷 真知子 中村 敦子			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	障害者および高齢者が生活を行う上で必要となる生活環境を理解する		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 生活環境について(総論)	生活環境の概念、理学療法における生活環境の位置づけについて理解ができ、自分を取りまく環境について考え、説明することができる。	中村 敦子
	2 住環境と整備	住まいの機能、基本的な要件、建築の基準、生活環境の評価と改善のポイントについて理解し、実際の建物を計測することができる。	
	3 福祉用具について	福祉用具の定義・範囲・種類・名称・法制度について理解し、説明することができる。	
	体験実習(車いす・杖での段差越え、スロープの勾配、扉・廊下・方向転換の幅員)	車いすや杖使用時における身体機能の使用、介助の仕方、環境による走行の違いについて、体験を通して理解し、説明することができる。	
	5 環境が人に与える影響	環境と動作の関係を知る。姿勢と動作を観察する。また、動作分析についてその概要を知る。 実習課題の説明および計画。	深谷 真知子
	6 実習課題: 動作①～⑤と生活環境の関係 ①立ち上がり動作 ②跨ぎ動作 ③リーチ動作(座位・立位) ④上肢支持 ⑤車椅子移乗動作	環境の違いとそれに伴う身体活動の変化についてグループで体験し、観察する。 適切な環境設定を考える。 困難な動作における環境の工夫を考える。	
	7 発表とまとめ	発表を通し、環境と動作の関連を確認し、適切な生活環境を説明できる。	
授業形態	講義および実習		
教科書	特に使用しない		
参考書	鶴見隆正 編集:標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 医学書院 木村哲彦 監修:生活環境論-生活支援の視点をその方法- 医歯薬出版株式会社 千住秀明 監修:理学療法学テキストⅩ 生活環境論 神陵文庫 千住秀明 監修:理学療法学テキストⅤ 日常生活活動(ADL) 神陵文庫 など		
評価方法	実習の遂行・課題提出・発表(25%), 筆記試験(75%)		
授業時間外の学習	実習が速やかに遂行できるよう、事前に内容を把握し、計画・準備を0.5～1時間程かけてしっかりしておくこと。		
履修上の留意点	実習課題はグループワークとなるので行うべきことや自らの役割を考え進めていくこと。また、体験をもとに感じたこと、観察できたことを考察に活かせるように、積極的に臨むこと。動きやすい服装で参加すること。		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	基礎運動学				担当者	伊藤 剛			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	身体運動に関わる力学および筋骨格系・感覚系の構造や機能、神経系の基礎、運動における中枢神経機構や運動学習について理解し、説明できる。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	生体力学の基礎 （1）身体運動と力学 （2）身体運動の面と軸 （3）運動学的分析 （4）筋力と重力 （5）モーメント （6）運動の法則 （7）仕事とエネルギー （8）身体とてこ	身体運動の記述と解釈に必要な力学の基礎知識を理解し、説明できる。	伊藤剛
	2 生体の構造と機能 （1）細胞 （2）組織	身体を構成する細胞・組織について理解し、説明できる。	伊藤剛
	3 生体の構造と機能 （3）運動器の構造と機能	骨・筋・関節の構造と機能について理解し、説明できる。筋収縮について理解し、説明できる。	伊藤剛
	4 生体の構造と機能 （4）神経系	神経系の構造・機能について理解し、中枢神経・末梢神経や機能局在などについて説明できる。	伊藤剛
	5 生体の構造と機能 （5）運動の中枢神経機構	運動における中枢神経機構の働きについて理解し、反射・姿勢保持・随意運動などについて説明できる。	伊藤剛
	6 生体の構造と機能 （6）感覚器の構造と機能	感覚器の構造と機能について理解し、分類・伝導路などについて説明できる。	伊藤剛
	7 運動学習 （1）学習と記憶 （2）運動技能	運動学習の基本概念を理解し、記憶・動機づけ・フィードバック・パフォーマンスなどについて説明できる。	伊藤剛
授業形態	講義		
教科書	中村隆一、齋藤宏、長崎浩 著：基礎運動学，医歯薬出版		
参考書	大地睦夫：生理学テキスト，文光堂 杉浦和朗：イラストによる中枢神経系の理解，医歯薬出版		
評価方法	筆記試験(100%)		
授業時間外の学習	事前に配布する授業資料について、予習を行い、記載が必要な箇所がある場合には完成させ授業に臨むこと。前期に履修した物理学、解剖学、生理学の内容を理解、整理して授業に臨むこと。		
履修上の留意点	運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり、運動障害を治療対象とする理学療法士にとって、その理論的基盤をなす重要な基礎科目である。		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	生理学実習				担当者	石田和人 中村敦子 嵯峨守人			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	ヒトを対象にして、基礎的実験や計測を行うことで、リハビリテーションに必要な人体の生理現象について理解する。これまでの講義で学んだ事を、実際に自分自身で測定・経験し、身体への反応や変化をリアルタイムで確認することで、生理学に対する知識と理解をより深める。 講義の内容を各自で体験し確認することで、講義の復習をはじめ、生体のメカニズム、生命の尊厳について理解を深める。理学療法、作業療法に必要な基礎医学を体得し、臨床的にも充分役立つ内容である。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 オリエンテーション	講義の進め方、課題についての説明。	中村 嵯峨
	2 実習準備	実習で使用する物品および機器を準備し、機器に関しては実際にセッティングし、動作確認を行う。	中村 嵯峨
	3 ①表面筋電図	随意的に筋力を発揮したときの表面筋電図を導出し、骨格筋の神経支配の仕組みを理解する	嵯峨
	4 ②血圧・脈拍	触診法および聴診法による血圧測定の方法を習得する。 体位変換に伴う心血管循環反応について考察する。	
	5 ③酸素負債	酸素負債について、理解する。本実習では運動中の脈拍測定により、運動中の身体エネルギー収支を理解する。	中村
	6 ④皮膚感覚・深部感覚	皮膚上の感覚(触覚と痛覚)について、その受容器の性質を理解する。感覚の違いおよび触覚の部位による感覚点の差異について考察する。関節角度に関する感覚の個人差と、この感覚が振動によりいかに変化するかを調べ、深部感覚における筋紡錘の機能を理解する。	
	7 ⑤肺機能	スパイロメーターを用いた呼吸機能検査における、測定意義・項目・判定基準を理解する。運動負荷が呼吸数に及ぼす影響を観察し、呼吸が神経性に調節される仕組みを考察する	
	8 ⑥最大酸素摂取量	運動強度と心拍数の変化から、最大酸素摂取量を推定する意義・測定方法・手順を理解する。	
	9 ⑦自律神経	バルサルバ動作により血圧を変化させた際の自律神経の働きを調べる。息こらえにより血液の酸素分圧を低下させた際の自律神経の働きを調べる。	嵯峨
	10 ⑧心電図	12誘導心電図を記録し、その原理や測定方法を確認する。心臓における電気的興奮の発生と、伝導の状況を心電図波形から考察する。また運動時の心拍数の変化を脈波の計測により行い、心拍数から運動強度を求める。	
	11 ⑨誘発筋電図	誘発筋電図の機序を説明できる	石田
	12 13 発表準備、発表 14	実習①～⑧について、各班に割り当てられた課題について発表を行う	中村 嵯峨
授業形態	実習、発表		
教科書	「生理学テキスト」 大地陸男, 文光堂		
参考書	「標準生理学」 小澤 滯司ら 監修, 医学書院 「生理学実習NAVI」 佐藤 昭夫 監修, 医歯薬出版 「コメディカルのための生理学実習ノート」 杉 春夫, 南江堂		
評価方法	中村・嵯峨担当分 実習参加状況(25%)、レポート(50%)、発表(25%) : 89点 石田担当分 レポート(100%) : 11点		
授業時間外の学習	1～2時間の事前事後学習を要す		
履修上の留意点	生理学講義で学んだ内容を整理・理解するとともに、上記の測定内容、関連事項(解剖学・生理学・生物学・物理学等)について予習・復習しておくこと		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	表面解剖学				担当者	深谷 真知子 川瀬 翔太			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	理学療法の基礎となる解剖学の知識を整理し、その知識を基に人体の構造(筋、骨、脈管、神経、臓器)を体表から説明し、触診する能力を獲得する。また、機能解剖学的な思考が出来るよう基礎的な方法を身に付ける。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 orientation&introduction Thorax1-3, 5-7, Abdomen42	①体表上から骨、筋、脈管・神経の走行、臓器の位置が確認・触診でき、説明できる。 ②体表上から触診できない骨、筋、脈管・神経の走行、臓器に関し位置が示せ、説明できる。 ③人体におけるランドマークについて触診でき、説明できる。	深谷 真知子 川瀬 翔太
	2 Thorax4, 8-19, Abdomen46		
	3 Thorax20-25, Abdomen 1-8,12(×9,10,11)		
	4 Abdomen 13-24, 33, 45, 46		
	5 Abdomen 25-32, 34-36, 41,43,44(×37-40)		
	5回終了後、実技テスト (Thorax, Abdomen)		
	6 Upper Limb 1-5,7-11,15-21+胸鎖乳突筋		
	Upper Limb 6,12-14,22-24,27-29,46(a), 47(a)+肘, 棘上筋, 棘下筋, 小円筋, 肩甲下筋, 大円筋		
	8 Upper Limb 25,26,30-37,40,46(b,c,d),47(b,c),51-53 Upper Limb 38,39,41-45,48-50,53-54+母指球, 神経分布, 線維鞘		
	8回終了後、実技テスト (Upper Limb)		
	9 Lower Limb 1-4,7-8,10-23 +大腿筋膜張筋, 恥骨筋		
	10 Lower Limb 5,6,9,24-41 +薄筋		
	11 Lower Limb 42-60		
	12 Head&Neck 1-52, 復習		
12回終了後、実技テスト (Lower Limb, Head)			
授業形態	実技実習		
教科書	John V. Basmajian, M.D. SURFACE ANATOMY AN INSTRUCTION MANUAL		
参考書	1. 野島元雄監修:図解 四肢と脊柱の診かた. 医歯薬出版、2. 日本人体解剖学 上・下、3. 解剖学カラーアトラス、4. 分担解剖学、5. 体表解剖学、6. 生体の解剖学、7. 骨格筋の形と触診法、8. 機能解剖学的触診技術 上肢編/下肢・体幹編、9. ボディナビゲーション、10. クリニカルマッサージ、11. Basmajian Grant's method of anatomy、12. Gray's Anatomy、13. Essential解剖学、14. グレイ解剖学 など		
評価方法	筆記試験(40%) 実地試験(40%) 授業ごとのPostテスト(20%)		
授業時間外の学習	各自、作成した予習ノートと筋ノートをもとに授業をすすめていくため、予習を十分に行うこと。		
履修上の留意点	授業中に確認できたこと、学んだことはノートに書き込むなど積極的に臨むこと。実技が主体の授業であるため、服装や身だしなみに配慮する。知識の獲得は勿論、触診技術を養うことを忘れないで取り組んでほしい。忘れ物に注意すること。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	解剖学実習				担当者	嵯峨 守人 川瀬 翔太			
学 年	1	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	解剖学Ⅰ・Ⅱで学んだ人体の構造・機能に関する知識をもとに、教科書・骨標本・骨格模型・臓器模型・映像教材など各種教材を用いて学習することで、各器官・臓器の関連性や立体構造について十分な理解を深める。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 オリエンテーション	授業の目標や内容、課題等について理解できる。	嵯峨
	2 骨格系、筋系、神経系	骨スケッチおよび筋ノート作成を通して、個々の骨の特徴的な構造を理解する。特に受動的運動器である骨を能動的運動器である筋と関連させて理解する。 骨・筋の説明を繰り返し行い、知識を定着させる。	嵯峨
	3 循環器系	人体解剖の動画(DVD)を見ることで実際の臓器、組織についてイメージをつけ、各臓器の大きさや位置関係、つながりについて理解する。	川瀬
	4 呼吸器系	人体解剖の動画(DVD)を見ることで実際の臓器、組織についてイメージをつけ、各臓器の大きさや位置関係、つながりについて理解する。	川瀬
	5 消化器系	人体解剖の動画(DVD)を見ることで実際の臓器、組織についてイメージをつけ、各臓器の大きさや位置関係、つながりについて理解する。	川瀬
	6 骨格系、筋系、神経系 各論	人体解剖の動画(DVD)を見ることで実際の臓器、組織についてイメージをつけ、各臓器の大きさや位置関係、つながりについて理解する。	川瀬
授業形態	講義、演習		
教科書	『グレイ解剖学』原著第4版、R. L. Drake ほか(著)秋田恵一(訳)エルゼビア・ジャパン 『解剖学カラーアトラス』J. W. Rohen／横地 千仞／E Lütjen - Drecoll (著) 医学書院		
参考書	『日本人体解剖学 上巻』金子丑之助(原著)南山堂 『ネッター解剖学アトラス』F. H. Netter (著) 相磯 貞和(訳)南江堂 『カラースケッチ解剖学』Wynn Kapit(著) 嶋井 和世(訳)廣川書店 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 『解剖学』第5版 野村 嶺(編集)医学書院 『Essential解剖学 テキスト&アトラス』中野 隆(監訳)南江堂		
評価方法	期末試験:70点(担当教員の講義時間に応じて配分、川瀬30時間・嵯峨15時間)、筋ノート:10点、課題:20点		
授業時間外の学習	骨スケッチ、筋ノートの作成、課題作成 1～2時間程度の事前事後学習を行うこと		
履修上の留意点	前期の解剖学講義で学んだ内容を基礎として授業が行われることを念頭に、解剖学に関する知識の整理・理解を行うこと。また、後期の表面解剖学、基礎運動学とも並行しながら授業が行われるため、関連性をもって授業に臨むこと。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	表面解剖学				担当者	輿 登 貴 子 梅 田 雄 嗣			
学 年	1	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	OTの基礎となる解剖学の知識を整理し、その知識を基に人体の構造(筋、骨、脈管、神経、臓器)を体表から説明し、触診する能力を獲得する。また、機能解剖学的な思考が出来るよう基礎的な方法を身に付ける。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 orientation & introduction Thorax1-8 Abdomen1,4,5,42	①体表上から骨、筋、脈管・神経の走行、臓器の位置が確認・触診でき、説明できる。 ②体表上から触診できない骨、筋、脈管・神経の走行、臓器に関し位置が示せ、説明できる。 ③人体におけるランドマークについて触診でき、説明できる。 骨：骨指標、椎体レベル、形状、関節、運動、位置関係 筋：起始停止、走行、作用(収縮・弛緩)、神経支配、靱帯、位置関係 脈管：椎体レベル、走行、分岐、合流、位置関係 神経：椎体レベル、走行、神経叢、皮神経分布、位置関係 臓器：椎体レベル、大きさ、左右差、特徴、位置関係 全体：ランドマーク、触診、表示、説明	輿登貴子 梅田雄嗣
	2 Thorax9-19		
	3 Thorax20-25, Abdomen 1-12(×9,10,11)		
	4 Abdomen 13-23, 45, 46		
	5 Abdomen 24-36,41,43,44(×37-40)		
	5回終了後、実技テスト(Thorax, Abdomen)		
	Upper Limb 1-5,7-11,15-21 6 +大菱形筋, 小菱形筋, 肩甲挙筋, 前鋸筋, 棘上筋, 棘下筋, 小円筋, 肩甲下筋		
	Upper Limb 6,12-14,22-24,26-29,32(j),33,46,47 + 烏口腕筋 7		
	Upper Limb 30-32,35,40,49,51-52 8		
	Upper Limb 25,32(e,k),34,36,37-39,41-45,48,50,53-54 + 総指伸筋、示指伸筋、小指伸筋 9		
	9回終了後、実技テスト(Upper Limb)		
	Lower Limb 1-3,7-13,15-23 + 腸腰筋 10		
	Lower Limb 4-6,14,24-41 + 薄筋 11		
	Lower Limb 42-60 + 長母趾屈筋 12		
	Head & Neck 1-52 13		
※13回終了後、実技テスト(Lower Limb) 日程は後日提示する			
授業形態	実技実習		
教科書	John V. Basmajian, M.D. SURFACE ANATOMY AN INSTRUCTION MANUAL、グレイ解剖学		
参考書	機能解剖学的触診技術 上肢編/下肢・体幹編、解剖学カラーアトラス、図解 四肢と脊柱の診かた、日本人体解剖学上・下、分担解剖学、体表解剖学、生体の解剖学、骨格筋の形と触診法、ボディナビゲーション、クリニカルマッサージ、Basmajian Grant's method of anatomy、Essential解剖学 など		
評価方法	授業ごとのPreテスト・実技試験・期末試験 100点		
授業時間外の学習	予習ノート作成、授業ごとの予習を1時間程度行い、知識および技術の復習を1～2時間程度行う。		
履修上の留意点	各自、作成した予習ノートをもとに授業をすすめていくため、予習を十分に行うこと。授業中に確認できたこと、学んだことはノートに書き込むなど積極的に臨むこと。実技が主体の授業であるため、服装や身だしなみに配慮する。知識の獲得は勿論、触診技術を養うことを忘れないで取り組んでほしい。忘れ物に注意すること。		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	解剖学実習				担当者	奥 登貴子 藤部 百代 水野 準也 梅田 雄嗣			
学 年	1	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	講義や教科書で学んだ人体の構造に関する知識をもとに、各種教材を用いて学習することで、各臓器・器官の関連性や立体構造について十分な理解を深める。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 オリエンテーション	授業の目標や内容、課題等について理解できる。	梅田
	2 内蔵	ビデオの視聴や講義を通して、各器官系の構成、臓器の位置関係、関連性について理解できる。	梅田
	3 骨①	講義やプレゼンテーションを通して、骨(脊柱、胸郭、上肢、骨盤、下肢、頭蓋)の英名、部位名、関節名、関連する内容について理解できる。	藤部 水野
	4 骨②(口頭試問)	骨(脊柱、胸郭、上肢、骨盤、下肢、頭蓋)について英名、部位名、関節名と関連する内容に関して説明することができる。	奥 藤部 水野
	5 筋	ビデオの視聴や筋ノートの作成を通して、筋の立体的構造と脈管・神経との関連性について理解できる。	梅田
	筋①(上肢)	肩部(前面、後面)、上腕部(前面、後面)、前腕部(前面)	梅田
	筋②(上肢)	前腕部(後面)、手部	梅田
	筋③(下肢)	殿部、大腿部(前面)	梅田
	筋④(下肢)	大腿部(後面)、下腿部(前面、側面、後面)、足部(足背面、足底面)	梅田
	筋⑤(体幹)	頭頸部、胸腹部、背部	梅田
授業形態	講義、演習		
教科書	『グレイ解剖学』原著第4版、R. L. Drake ほか(著)秋田恵一(訳)エルゼビア・ジャパン 『解剖学カラーアトラス』J. W. Rohen／横地 千仞／E Lütjen - Drecoll (著)医学書院		
参考書	『日本人体解剖学 上巻』金子丑之助(原著)南山堂 『ネッター解剖学アトラス』F. H. Netter (著)相磯 貞和(訳)南江堂 『カラススケッチ解剖学』Wynn Kapit(著)嶋井 和世(訳)廣川書店 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 『解剖学』第5版 野村 嶺(編集)医学書院 『Essetial解剖学 テキスト&アトラス』中野 隆(監訳)南江堂		
評価方法	口頭試問:30点 筋ノート:10点 期末試験:60点(藤部:20点、水野:5点、梅田:35点)		
授業時間外の学習	プレゼンテーションの準備、口頭試問の学習、筋ノートの作成など 各授業、1～2時間程度の事前事後学習を行うこと		
履修上の留意点	前期の解剖学講義や骨スケッチで学んだ内容を基礎として授業が行われることを念頭に、解剖学に関する知識の整理・理解を行うこと。また、後期の表面解剖学、基礎運動学とも並行しながら授業が行われるため、関連性をもって授業に臨むこと。		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	生理学実習				担当者	石田 和人 梅田 雄嗣 塩谷 絵梨			
学 年	1	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	これまでの講義で学んだ事を、実際に自分自身で測定・経験し、身体の反応や変化をリアルタイムで確認することで、生理学に対する知識と理解をより深めること。 講義の内容を各自で体験し確認することで、講義の復習をはじめ、生体のメカニズム、生命の尊厳について理解を深める。理学療法、作業療法に必要な基礎医学を体得し、臨床的にも充分役立つ内容である。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 オリエンテーション	講義の進め方、課題についての説明	梅田・塩谷
	2 実習準備	実習で使用する物品および機器を準備し、機器に関しては実際にセッティングし、動作確認を行う。	梅田・塩谷
	3 ①表面筋電図	筋の活動電位を記録したものが筋電図Electromyograph (EMG)であり、筋の診断に広く応用されている。ここでは随意的に筋力を発揮したときの表面筋電図を導出し、骨格筋の神経支配の仕組みを理解する	塩谷
	4 ②血圧・脈拍	触診法および聴診法による血圧測定の方法を習得する。体位変換に伴う心血管循環反応について考察する。	梅田
	5 ③酸素負債	酸素負債について、理解する。本実習では運動中の脈拍測定により、運動中の身体エネルギー収支を理解する。	梅田
	6 ④皮膚感覚・深部感覚	皮膚上の感覚(触覚と痛覚)について、その受容器の性質を理解する。感覚の違いおよび触覚の部位による感覚点の差異について考察する。 関節角度に関する感覚の個人差と、この感覚が振動によりいかに変化するかを調べ、深部感覚における筋紡錘の機能を理解する。	塩谷
	7 ⑤肺機能	スパイロメーターを用いた呼吸機能検査における、測定意義・項目・判定基準を理解する。運動負荷が呼吸数に及ぼす影響を観察し、呼吸が神経性に調節される仕組みを考察する	梅田
	8 ⑥最大酸素摂取量	運動強度と心拍数の変化から、最大酸素摂取量を推定する意義・測定方法・手順を理解する。	塩谷
	9 ⑦自律神経	バルサルバ動作により血圧を変化させた際の自律神経の働きを調べる。 息こらえにより血液の酸素分圧を低下させた際の自律神経の働きを調べる。	梅田
	10 ⑧心電図	12誘導心電図を記録し、その原理や測定方法を確認する。心臓における電氣的興奮の発生と、伝導の状況を心電図波形から考察する。また運動時の心拍数の変化を脈波の計測により行い、心拍数から運動強度を求める。	塩谷
	11 ⑨誘発筋電図、神経伝道速度	誘発筋電図の機序、神経伝導速度の求め方を説明できる	石田
	12 発表準備、発表	実習①～⑧について、各班に割り当てられた課題について発表を行う	梅田・塩谷
授業形態	実習、発表		
教科書	「生理学テキスト」 大地陸男， 文光堂		
参考書	「標準生理学」 小澤 滯司ら 監修, 医学書院 「生理学実習NAVI」 佐藤 昭夫 監修, 医歯薬出版 「コメディカルのための生理学実習ノート」 杉 春夫, 南江堂		
評価方法	梅田・塩谷担当分(89点)： 実習態度25%、レポート50%、発表25% 石田担当分 レポート(11点)：100%		
授業時間外の学習	1～2時間の事前事後学習を行うこと		
履修上の留意点	準備や内容について、前の班からしっかり申し送りを受けて実習に臨むこと 生理学講義で学んだ内容を整理・理解するとともに、上記の測定内容、関連事項(解剖学・生理学・生物学・物理学等)について予習・復習しておくこと		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	基礎運動学				担当者	水野 準也			
学 年	1	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	身体運動に関わる力学及び筋骨格系・感覚器系の構造や機能, 神経系・感覚器系の基礎について説明することができる。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 運動学とは	運動学の領域について説明できる	水野
	2 生体力学	運動の特徴を定量的に読み取るためのデータを理解することができる。 力やその図示について理解し、説明することができる。 力の合成と分解を理解することができる。 モーメントと重心について理解し、説明することができる。 運動の法則について理解し、説明することができる。 運動にともなう仕事と力学的エネルギーについて、理解し、説明することができる。 身体におけるてこについて力学的に理解し、説明することができる。	水野
	3 運動の面と軸、運動方向	基本肢位、運動の面と軸について説明することができる。 運動方向について説明することができる。	水野
	4 生体の構造と機能	器官系の分類、細胞の構造、細胞内の化学反応、細胞膜の興奮(活動電位等)、神経線維構造と種類について理解し説明することができる。 興奮と伝導、シナプス伝達、神経筋接合部について理解し説明することができる。 骨の種類と基本構造、血管神経系、構成成分、発生と成長、ビタミン・ホルモンについて理解し説明することができる。 関節の構造・構成要素、連結の種類、機能について理解し説明することができる。 骨格筋の構造形状、微細構造と筋収縮機序、興奮収縮連関、筋線維の種類について理解し説明することができる。 収縮様式をはじめ、筋収縮における力学的要素について説明することができる。 筋紡錘、腱器官についての構造・機能について理解し説明することができる。 反射弓、伸張反射、I a抑制、I b抑制、屈曲反射について理解し、説明することができる。	水野
授業形態	講義、グループ学習		
教科書	基礎運動学第6版 中村隆一 長崎 浩 齋藤 宏 (医歯薬出版)		
参考書	授業内容によって、生理学や物理学の授業プリントを活用する。		
評価方法	期末試験(筆記試験); 100点		
授業時間外の学習	各単元の授業前には関連する科目、特に物理学や生理学の復習を学習し、講義後には1時間程度の復習を行うこと。		
履修上の留意点	1年生前期で学習した生理学や物理学で学習した内容の理解が必要である。今後、運動学や疾患学を理解するための基礎科目となることを念頭に置いて臨むこと。		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業療法管理学Ⅰ				担当者	奥 登貴子 梅田 雄嗣			
学 年	1	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	医療を志す者として必要とされる職業上の責務・倫理についての知識と現状を学ぶ。 当院における施設概要や国立病院機構の組織概要を知ると共に各部門の業務内容について学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 総論	作業療法管理学の総論について理解できる。	輿登貴子
	2 作業療法倫理要項	作業療法の倫理要項について理解できる。	輿登貴子
	3 病院の概要と運営方針	国立病院機構の概要と運営方針について理解できる。	梅田雄嗣
	4 医の倫理	医の倫理について理解できる。	梅田雄嗣
	5 病院の組織と事務部門の業務	国立病院機構の組織と事務部門の業務について理解できる。	梅田雄嗣
	6 看護部門の組織と業務	看護部門の組織と業務について理解できる。	梅田雄嗣
	7 経営企画室の業務と保険請求	経営企画室の業務と保険請求について理解できる。	梅田雄嗣
	8 医療安全管理部門の組織と業務	医療安全管理部門の組織と業務について理解できる。	梅田雄嗣
	9 感染管理部門の組織と業務	感染管理部門の組織と業務について理解できる。	梅田雄嗣
	10 栄養管理室の業務	栄養管理室の業務について理解できる。	梅田雄嗣
	11 医療社会事業専門職の業務	医療社会事業専門職の業務について理解できる。	梅田雄嗣
	12 言語療法室の業務	言語療法室の業務について理解できる。	梅田雄嗣
	13 薬剤部の業務	薬剤部の業務について理解できる。	梅田雄嗣
	14 放射線科の業務	放射線科の業務について理解できる。	梅田雄嗣
	15 検査科の業務	検査科の業務について理解できる。	梅田雄嗣
	16 院内見学/病棟見学	薬剤部, 診療放射線科, 臨床検査科, 地域包括ケア病棟, 重症心身障害児(者)病棟, 神経難病病棟, 回復期リハビリテーション病棟の見学しその概要を理解できる。	梅田雄嗣
	17 発表および総括	ディスカッション, グループワークを経て発表を行う。その後に総括も実施。	梅田雄嗣
授業形態	講義 見学 ディスカッション・グループワークを経ての発表		
教科書	特に無し		
参考書	特に無いがレポート作成時に必要な場合は適宜紹介する		
評価方法	レポート(遅延・未提出は減点)(80%) 発表内容(20%)		
授業時間外の学習	講義や見学で理解した内容を説明できる様になるために知識の整理をする。		
履修上の留意点	1年前期で学習した作業療法概論・リハビリテーション概論を振り返り、目的意識を持って主体的に取り組むこと。		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	基礎作業学 実習 I				担当者	滝川 幸志 奥 登貴子 藤部 百代			
学 年	1	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	【陶芸】作業の一つの特性を持つ陶芸作業を体験する事で、基礎作業学を学ぶ。 陶芸の作業手順通りに授業を進め、最終的に作品として焼成するまで行う事により、基礎的な陶芸の技術と知識を得ると共に、作品を完成させる達成感を得る事も目標とする。 【木工・籐細工】作業療法で治療手段として用いる各作業活動の基本的知識や技法を習得するとともに、実践における注意点について学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 陶芸 土練り、手びねり、ひも作り	土練りの仕方を学ぶと共に、作業に適した土の固さを学習する。 手びねり、ひも作りにて作品を制作する。	滝川
	2 陶芸 ロクロ(水引き)、仕上げ	ロクロ(水引き)を体験する。 各技法で制作した作品を仕上げる。	滝川
	3 陶芸 タタラ作り、素焼き窯詰め	タタラ作りにて制作する。 前回までに乾燥した作品を窯詰めする	滝川
	4 陶芸 下絵付、釉掛け、本焼き窯詰め	素焼き作品に、絵付けや釉掛けを行ない、共同で窯詰めする。	滝川
	5 陶芸 本焼き窯出し、陶芸概論(講義)	窯から作品を出し、窯出し後の始末を学ぶ。 講義にて陶芸の基本的な知識を得る。	滝川
	6 木工	木の特性を説明できる。 製図、木取りが適切にできる。 道具を適切に扱うことができる。 作業を安全に実施することができる。 作品が出来上がるまでの過程を他者にわかりやすく、再現できるような内容でレポートできる。	藤部
7 作業分析	木工に関する作業分析について、考え方や内容を理解できる。	奥	
授業形態	講義及び実習		
教科書	指定なし(プリント配布)		
参考書	指定なし		
評価方法	期末試験 滝川(53点)、レポート・課題作品 藤部(40点)・奥(7点)		
授業時間外の学習	本焼きの窯の温度のグラフ記入や、ガス圧の調整をしながら本焼きを行う 進捗状況によっては、時間外にも作業を行う場合がある		
履修上の留意点	作業しやすい服装で臨むこと		
担当者の実務経験	滝川:障害者領域で陶芸を教授していた経験あり 奥・藤部:病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業療法評価学Ⅰ				担当者	藤部 百代			
学 年	1	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30
教育目標 [一般目標]	作業療法の流れにおける「評価」の位置づけを理解する。 作業療法の「評価」の種類と目的を理解する。 作業療法の「評価」の基礎的技法を理解する。 「評価」を記録し報告する目的を正しく理解する。								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]			担当者	
	作業療法の流れと評価の位置付け 1 評価の目的・意義、評価項目、評価の手順 情報収集				①作業療法評価の目的と意義を説明できる。 ②評価項目と、評価の手順について説明できる。 ③作業療法評価における情報について説明できる。			藤部	
	2 評価計画立案、分析と考察 問題点の抽出、治療目標の設定				①評価計画立案について説明できる。 ②結果の分析と考察、問題点の抽出について説明できる。 ③治療目標の設定について説明できる。			藤部	
	3 記録・報告				記録・報告について説明できる。			藤部	
	面接について① 4 目的、形態と種類、基本的な進め方、 事前準備				①面接の目的について理解し、説明することができる。 ②面接の形態と種類について理解し、説明することができる。 ③面接の基本的な進め方について理解し、説明することができる。 ④面接に必要な事前準備について理解し、説明することができる。			藤部	
	5 面接について② 一般的注意・原則、面接体験				①面接における一般的注意や原則について、 様々な場面での違いを実際に体験し、違いにつ いて理解することができる。			藤部	
	6 観察について①(講義)				①作業療法における観察の目的を説明できる。 ②観察の対象と観察ポイントを説明できる。 ③観察の種類と得られる情報を列挙できる。 ④正確な観察を行うために、観察者に求められ ることを説明できる。			藤部	
	7 観察について②(演習)				①観察ポイントに基づいた観察が実施できる。 ②観察の記録を行い、情報から解釈ができる。 ③情報を整理して、わかりやすいレポートが作成 できる。			藤部	
	8 観察と記録の実践 演習				対象者の作業療法場면을観察し、記録ができ る。 観察と記録についてのディスカッションを通して、 自己の観察と記録の特徴を認識できる。 観察記録のフィードバックを受け、修正できる。			藤部	
授業形態	講義、演習、実習								
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 医学書院								
参考書	指定なし								
評価方法	期末試験 藤部90点、 レポート10点								
授業時間外の 学習	授業ごとの予習復習をそれぞれ30分程度行うこと。観察の演習・実習に関するレポートを作成する。								
履修上の 留意点	見学実習については、別途オリエンテーションを実施する。								
担当者の 実務経験	病院で作業療法に従事								

授 業 要 項

令和2年度

科目名	生活環境論				担当者	奥 登貴子 水野 準也 塩谷 絵梨			
学 年	1	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	生活において環境が人に与える影響を理解する。 環境整備に必要な基本的知識を身に付ける。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 生活環境について	①生活と環境の概念について、理解することができる。 ②生活に影響を与える環境因子について、理解することができる。	奥
	2 住環境について	住環境整備に関して、基礎知識をふまえて理解することができる。 ＊住環境の概念、日本の住まいの特徴、基本的な建築知識	塩谷
	3 福祉用具について	福祉用具について、基礎知識をふまえて理解し説明することができる。 ＊福祉用具の定義、自助具の定義 関連制度（ハートビル法、バリアフリー法、PL法など）	塩谷
	4 実習（グループワーク）と発表	グループ実習課題について、環境による動作の変化を観察し、その要因などを考察することができる。	水野
	5		
	6		
	7		
	8		
授業形態	1～3まではプリント、教科書を用いた講義を行う。講義にはグループワークを随時取り入れて進めていく。		
教科書	新版 日常生活活動（ADL）―評価と支援の実際― 医歯薬出版株式会社		
参考書	指定なし		
評価方法	期末テスト：奥 15点、塩谷 25点、 レポートおよび発表：水野 60点		
授業時間外の学習	授業ごとの予習復習を各30分程度行うこと。 実習に関するグループワークとしてレポート作成および発表準備を行う。		
履修上の留意点	実習を行うにあたり、授業と別途にオリエンテーションを実施する。実習では、特別な事情以外、授業開始前までに準備をすましておくことを前提とする。		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		